

# 地方版図柄入りナンバープレート制度設計 に向けた論点整理(寄付金)について

国土交通省自動車局  
平成28年2月

○ 第2回検討会においては、検討事項①～⑤の制度設計の方向性(案)について議論が行われた。第3回検討会においては、引き続き検討を行うこととされた検討事項⑥と⑦の制度設計の方向性(案)について、議論を行う。

検討事項①：地方版図柄入りナンバープレートの交付地域の単位について

検討事項②：図柄を提案する地方自治体の考え方について

検討事項③：提案された図柄の選定基準について

検討事項④：一地域から提案される図柄の数について

検討事項⑤：地方版図柄入りナンバープレートの対象車種について

検討事項⑥：寄付金を充てる事業の範囲の考え方について

検討事項⑦：寄付金の募集・配分の方法について

- 検討事項⑥と⑦について、第1回検討会で示された「基本的な考え方」に基づき、制度設計の方向性(案)を整理した。

## 第1回検討会 主な検討事項における「基本的な考え方」

### 第1回検討会における意見、アンケート調査結果等

#### ①第1回検討会における委員からの意見等

#### ②ヒアリングを実施した地方自治体からの意見等

#### ③地方自治体へのアンケート調査結果

○対象者: 本検討会のヒアリング対象(山梨県、静岡県、奈良県、三重県)外の43都道府県

○回答数: 40都道府県

#### ④自動車ユーザーへのアンケート調査結果

○対象者: ・登録自動車又は軽自動車を保有する者  
・18歳以上の男女で、運転免許を保有する者  
・全国10ブロック(地域)に区分し、各ブロックから一定のサンプル数を抽出

○回答数: 全国 5,000人

## 制度設計の方向性(案)

### 基本的な考え方

- 寄付金は、地域が募集するか否かを選択するものであること、自動車ユーザーが善意で支払うものであること等を踏まえ、どのような事業に充てることとすべきか。

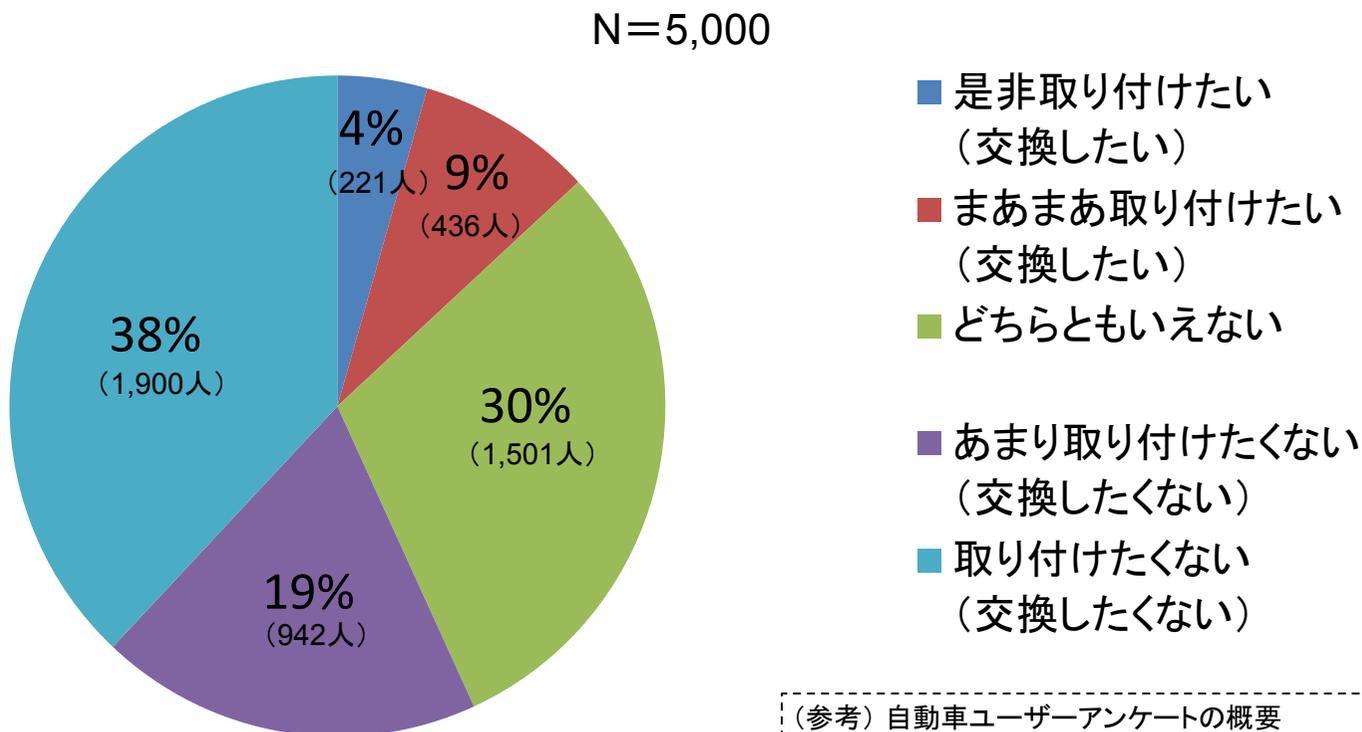
## 第1回、第2回検討会における意見、アンケート調査結果等

### 委員からの意見等

- 寄付金の使途について、自動車ユーザーからの寄付金であるため、自動車関係、道路、環境に使うということが非常にわかりやすいが、地域の方々は観光振興に使いたいという思いもある。
- 寄付金の使途について、自動車ユーザーが納得するような説明が必要。
- 観光振興というように広く捉えるのではなく使途をはっきりさせた方がよい。交通遺児に対する教育等の支援や、公園整備などの環境保全の視点も重要。
- 寄付金の使い道について、寄付者の気持ちが尊重されていれば自由で良いのではないかと。ただし、どのくらいの事務的なコストがかかるのかについて、域外にナンバープレートを発行することも加えてその辺の事務的な実行性が一つのポイントになるのではないかと。

## ユーザーへのアンケート調査結果

- 寄付金付き地方版図柄入りナンバープレートを「是非取り付けたい」、「まあまあ取り付けたい」という意見が全体の13%を占めており、理由として、「地域振興のため」、「見た目が良いから」が多い。
- 一方、「どちらともいえない」という意見が30%を占めており、理由として、「デザイン次第で取り付けたい」、「金額次第で取り付けたい」が多く含まれていた。

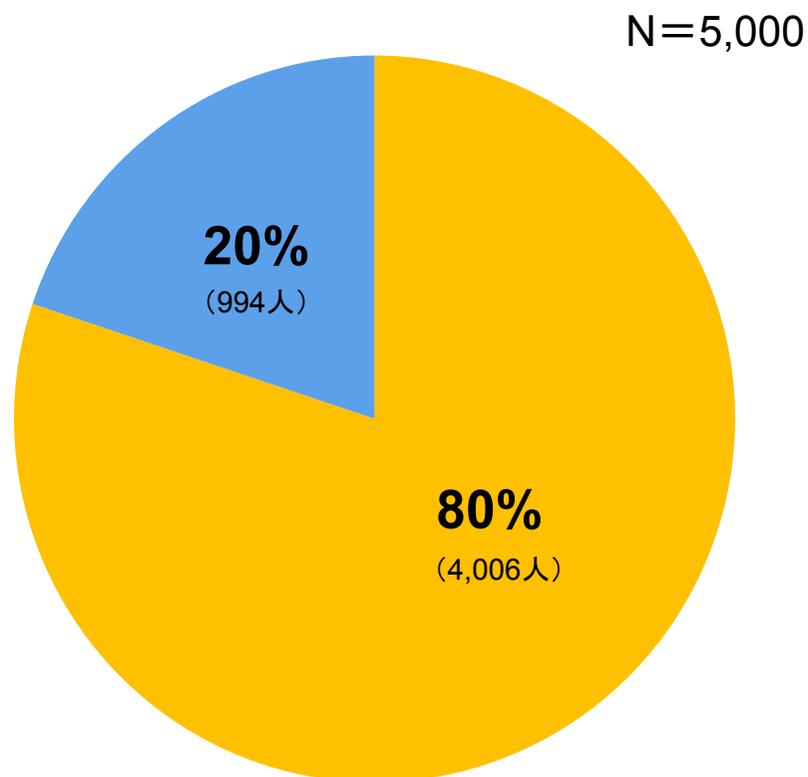


(参考) 自動車ユーザーアンケートの概要

- 対象者: ・登録自動車又は軽自動車を保有する  
 ・18歳以上の男女で、運転免許を保有する者  
 ・全国10ブロック(地域)に区分し、各ブロックから一定のサンプル数を抽出
- 回答数: 全国 5,000人

## ユーザーへのアンケート調査結果

- 寄付金は自動車ユーザーに関連する事業に充てることが良いと考えるユーザーが、80%を占めている。
- 一方、寄付金を募集する地方自治体において行う事業であって、当該地域住民の理解が得られるものに充てることが良いと考えるユーザー(20%)については、具体的な事業として、医療、介護、福祉、地域振興、子育て等の事業をあげている。



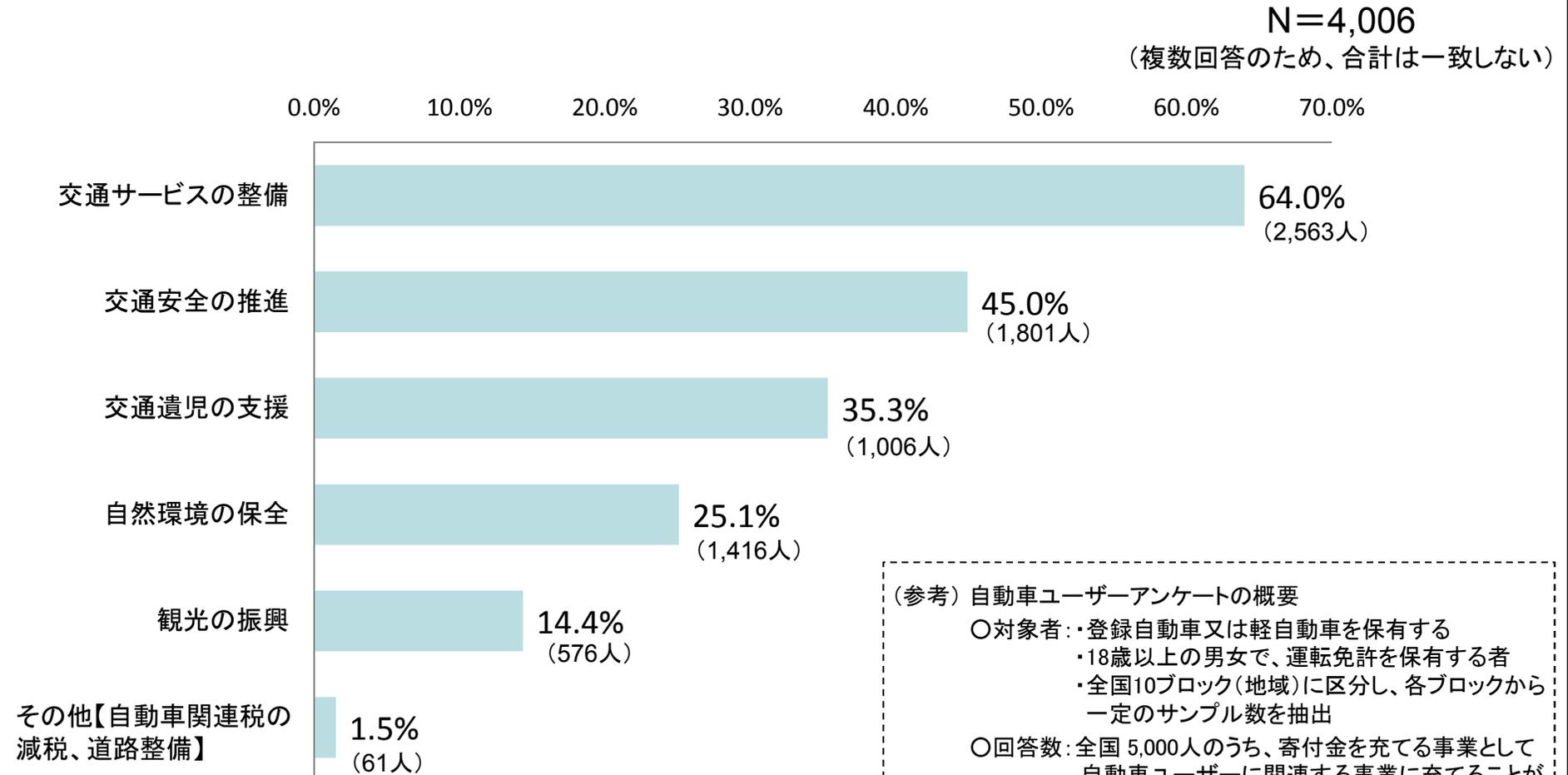
- 寄付金は自動車ユーザーの善意で支払われるものであることにかんがみ、自動車ユーザーに関連する事業に充てることが良い
- 寄付金を募集する地方自治体において行う事業であって、当該地域住民の理解が得られるものに充てることが良い(考えられる具体的な事業内容:医療、介護、福祉、地域振興、子育て、養育、環境、災害対策、自治体の任意)

(参考) 自動車ユーザーアンケートの概要

- 対象者: ・登録自動車又は軽自動車を保有する  
・18歳以上の男女で、運転免許を保有する者  
・全国10ブロック(地域)に区分し、各ブロックから一定のサンプル数を抽出
- 回答数: 全国 5,000人

## ユーザーへのアンケート調査結果

○ 自動車ユーザー関連事業に充てると答えたユーザーのうち、寄付金の使途として交通サービスの整備に充てることが良いと考えるユーザーが最も多く、64%を占めている。



### 地方自治体からの意見等

- 交通安全や環境保護など特定の目的に活用。
- 観光振興やシティプロモーションに努める。
- 地球温暖化対策及び環境保全(CO2削減等)、道路環境整備、地域振興・観光振興、地方版総合戦略に位置付けられた事業。
- 地域振興のほか、交通マナー向上などのソフト施策や、バスやタクシーのバリアフリー化等交通サービス基盤の強化など、自動車関連の施策に充てるのがふさわしい。
- 案内道標の外国語対応化などの交通利便性の向上や、希少動物のロードキル対策等の動物の交通被害防止対策といった、交通関係事業に活用。
- 多くの方の賛同が得られやすい事業が適当であり、地域の環境や景観の保全、観光振興などに活用。
- 交通環境の整備だけでなく、富士山の景観・環境保全等に活用。
- 交通事故の被害者救済(特に交通遺児奨学金など)に使用することがふさわしい。
- 寄付金の用途として、図柄の元となった資源に関連する振興策等は、寄付者の理解が得られやすい。
- 用途を限定した場合、使いづらくなる可能性がある。
- プレート作成に係る費用と寄付金の効果など、費用対効果の観点も検証してほしい。

### 地方自治体へのアンケート調査結果

- 観光地・特産品等の知名度向上、伝統的な行事の開催、世界遺産のPR・維持管理等、地域振興に資する事業を行うことがふさわしいと史料する。
- 観光誘客や物産振興、地域の認知度・好感度の向上の取組などの地方活性化事業。
- 図柄のモチーフとなる景勝地や製品のPR・保全事業への活用。
- 地方の特色ある図柄を取り入れたナンバープレートとなることから、地域振興や観光振興に関する事業への充当が考えられます。
- 景観保全、文化財保護や観光振興など、地域課題の解決に向けた取組み。
- 公共交通の維持に関する事業、道路整備費等。
- 道路整備やバリアフリー化、環境対策、交通安全対策事業、公共交通機関の整備等。
- 寄付を行うのは自動車やバイクの所有者となるため、道路環境整備、公共交通対策、環境保全に関する事業への充当が考えられます。
- 公益的事業の実施は、地方自治体を実施の単位とした方が障害は少ないと考えるが、地域の全自治体が同一の「公益的事業」を実施することは困難である。そこで、自動車ユーザーに提示するのは、例えば「観光振興事業」など大括りとし、具体的には、A市は特定の「季節イベント開催事業の費用の一部」に充て、B町は「宿泊助成事業の費用の一部」に充てることを可とするような対応とする方が良いと考える。
- 寄付金の規模や額がわからない時点では、寄付金の用途の検討は難しい。
- 寄付金付きについては、制度として構築される場合には、寄付金を収めてまで欲しいと思う人がどれだけいるかの確認を行って頂きたい。

### 制度設計の方向性(案)

- 地方版図柄入りナンバープレートの交付に合わせて寄付金を募集するか否かについては、提案する地方自治体を選択する。
- 寄付は、自動車ユーザーの善意により、寄付金の募集・配分を行う組織(検討事項⑦にて詳述)に対して、直接に、あるいは図柄入りナンバープレートの交付申請の際に合わせて行われることが想定される。また、寄付金の総額が、交付枚数等に連動して年度毎で増減することも想定される。  
したがって、寄付金は、自動車ユーザー等に裨益するものであって、単年度で支出の効果が発現するものに充てることとする。  
例えば、
  - ・ 地域における自動車交通サービスの改善・利用促進に資する事業(リフト付きバス、ユニバーサルデザインタクシーの導入、公共交通機関の利用の啓発等)
  - ・ 観光振興に資する事業(臨時バスの運行、周遊パスの発行等の輸送の円滑化、輸送力の強化を伴うイベント等の経費等)
  - ・ 交通事故の被害者救済(一時金等)等が考えられる。
- 提案主体となる地方自治体が、あらかじめ、寄付金の使途を明らかにした上で、図柄入りナンバープレートに関する地域の自動車ユーザーの需要動向や寄付金を活用した事業の効果等を検証し、これらについて図柄と事業を合わせて提案する。

### 基本的な考え方

- 寄付金の募集・配分は、以下の事項を念頭に置いて検討を進めるべきではないか。
  - ・ 寄付金の使途・配分について地域の意思を反映する方法
  - ・ 寄付金の配分に係る透明性・公平性の確保、寄付金の配分を効率的・専門的に行うための仕組み
  - ・ 寄付金の配分に係る検証
  - ・ ナンバープレート交付業務との連携や寄付金に係る税制優遇等、ユーザーが寄付を行いやすくするための仕組み
  - ・ 既存の公的な助成制度との関係の整理

### 第1回、第2回検討会における意見、アンケート調査結果等

#### 地方自治体からの意見等

- 地方に還元されるような制度設計としてほしい。
- 地方への波及効果が十分伝わるよう、交付税措置ではなく、補助金等により還元してほしい。

# 検討事項⑦寄付金の募集・配分の方法について(参考)

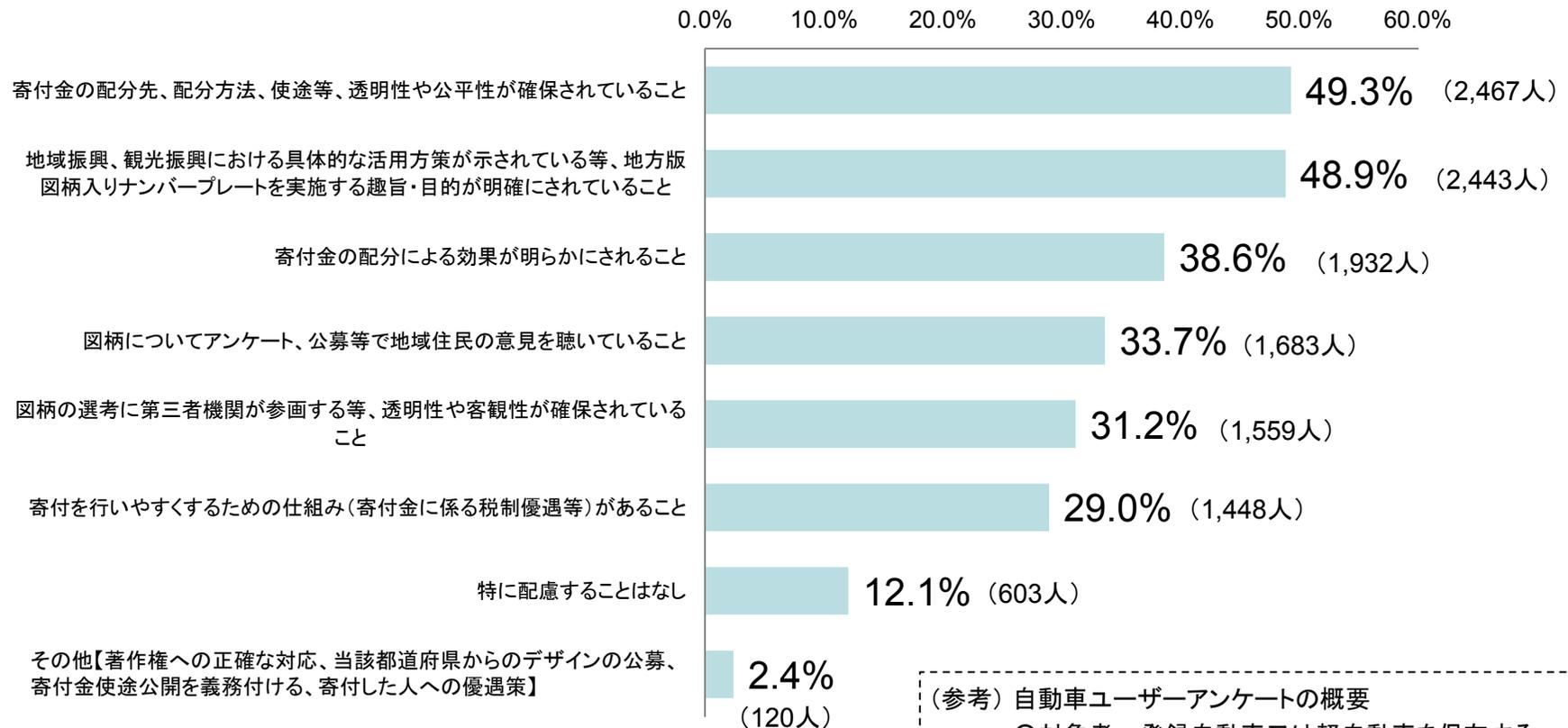
※第2回地方版図柄入りナンバープレート制度検討会(平成27年10月29日)<会議資料(一部修正)>

## ユーザーへのアンケート調査結果

○ 地方自治体が考慮すべきこととして、ほぼ半数のユーザーは「寄付金の配分先、配分方法、用途等、透明性や公平性が確保されていること」、「地方版図柄入りナンバープレートを実施する趣旨・目的が明確にされていること」という意見である。

N=5,000

(複数回答のため、合計は一致しない)



(参考) 自動車ユーザーアンケートの概要

- 対象者: ・登録自動車又は軽自動車を保有する  
・18歳以上の男女で、運転免許を保有する者  
・全国10ブロック(地域)に区分し、各ブロックから一定のサンプル数を抽出

○回答数: 全国 5,000人

### 制度設計の方向性(案)

- 寄付金付き地方版図柄入りナンバープレートの交付における寄付金の募集・配分を行う組織について、以下の要件を全て満たすものとする。
  - ・ 寄付金の配分を効率的・専門的に行うための仕組み、寄付金の配分に係る透明性・公平性の確保
  - ・ 既存の公的な助成制度との関係の整理
    - 全国の各地方自治体から提案された事業に対して、効率的に寄付金の募集・配分を行い、寄付目的に沿った寄付金の適正な管理等を行う観点から、国又は地方自治体以外で非営利の組織が全国一元的・専門的に寄付金の募集・配分を行う。
    - 寄付金の配分に係る透明性・公平性の確保の観点から、寄付金の募集・配分を行う組織に設置された第三者機関(以下「第三者機関」という。)が、配分する事業、事業の効果、配分額等を審査する。
  - ・ 寄付金の使途・配分について地域の意思を反映する方法
    - 寄付金の募集・配分を行う組織は、寄付金の募集・配分を決定するに当たり、提案主体である地方自治体から意見聴取を行う。
  - ・ 寄付金の配分に係る検証
    - 寄付金の募集・配分を行う組織は、事後的に提案主体である地方自治体から事業の報告を求め、第三者機関が検証を行う。
  - ・ ナンバープレート交付業務との連携や寄付金に係る税制優遇等、ユーザーが寄付を行いやすくするための仕組み
    - 自動車ユーザーが寄付を行いやすくするため、寄付をナンバープレートの交付申請と同時に行うことを可能とする。
    - 寄付金に係る税制上の特例措置が受けられるよう、寄付に対する受領証明書を発行する。

# 寄付金の募集・配分のフロー（イメージ）

